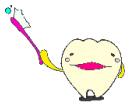




# 歯っぴーマウス通信



## Vol.4 『歯医者さんって、多職種とどこで繋がってるの?』

第4回は、多職種・多業種連携企画です。  
地域生活の中で、歯科医療と様々な職種・業種の方の接点について、一緒に考えてみましょう。  
今回は、G I F M O株式会社 代表取締役の森實 将さんにお話を伺いました。



G I F M O 株式会社  
代表取締役  
森實 将 様



京都市北歯科医師会  
公衆衛生委員  
(京都市北区開業)  
大河貴久

<https://gifmo.co.jp/delisofter/>

大河：多職種・多業種連携企画では、『食べること』、『話すこと』、『生きること』、『お口のこと』などをテーマに、様々なお仕事をしている方と歯科医師が対談していきます。  
第1回の対談は、G I F M O株式会社 代表取締役の森實 将さんです。早速ですが、G I F M Oさんから発売されている『DeliSofter (デリソフター)』について教えていただきたいと思います。

森實：2名の女性が未来の家電（介護食メーカー）を生み出したいという思いが形になった製品なんです。実際家族の介護を通して、ペースト食での介護を通して、食べる意欲が徐々に減っていくのを体感する中で、電子レンジに入れて取り出すかのように簡単に、家族と一緒に物を軟らかく食べやすくなる機械を作ろうと思えたのが『DeliSofter (デリソフター)』なんです。

大河：熱い思いが形になった製品なんですね。私も在宅診療をしています。現場で、「家族と同じものを同じ食卓で食べたら」「特別な調理手間も少なくできると助かる」といった声をよく聞きます。在宅で活用出来たり、良い家電として贈ったりもできそうですが、どのような方に『DeliSofter (デリソフター)』が届いて欲しいですか？また、食べ物のサイズの制限などはあるのでしょうか？

森實：『在宅の高齢者』、『食に困っている方』に届いて欲しいと思っています。摂食嚥下障害の中でも、『咀嚼（モグモグ噛む）』といった摂食系の困りごとにベストマッチするのかなと思います。サイズは、某冷凍食品のもも唐揚げ（5cm×5cm）位のサイズであっても軟らかくすることは可能です。小さい人参なども芯まで軟らかくすることが可能です。本体の大きさはコンビニ弁当がまるまゝ入るサイズで製作しました。今後も現場の声を今も聞きながら、サイズ感を小さくした方がいいのが等、在宅現場のニーズを聞きながら暮らしの中で受け入れられる姿を探していきたいと思っています。

大河：ある程度の大きさの野菜まで行けるなら、子供の手づかみ食べの調理にも使えそうですね。

森實：試作機の時に、うちの子どもに先ほどのブロッコリーを食べさせていたのですが、茎まで軟らかくなっていて形もあるので、同じ野菜を見た時に「ブロッコリー」と覚えてくれていたことがあるんです。そして中も軟らかくなっているので手でもって沢山食べていました。色と形がそのまま残っている食事に対する意欲もわくと思います。

大河：噛んでいる感覚は、歯の周りにある歯根膜や噛む時に働く筋肉の中にある筋紡錘というセンサーで多くを感じています。でも、その前に目で見て、臭いを嗅いでというフェーズがあり、頭ですでに食べる過程は始まっています。やはり、同じ食卓で、同じ食材で、食べれるのはとても素敵ですね。歯科医師も歯や口の治療や健康管理の先に食事での栄養摂取や美味しさという部分を見ることが大切だと思いますので、一緒に美味しく、楽しい『食』を考えていけるといいなと思います。最後にデリソフターについて伝えたいメッセージがあればお願いします。

森實：食事という暮らしの一部を支えるために、歯や口の健康を見ていただける先生方とも一緒に考えていければと思います。最後に、『DeliSofter (デリソフター)』は、食べることに悩みを抱える方への今までの提案とは異なり、満足度の高い美味しい食事を提供できる、だれと、どこで食べるという食の質の部分も上げ、『美味しい食事を食べれる』という部分に自信を持っています。

# 歯っぴーコラム ドライマウス対策は

## 感染予防にもなるお話!!



京都市北歯科医師会  
公衆衛生委員  
(京都市北区開業)  
日村光佑

これまでも感染について考えることはあったかもしれませんが、今回ほど深く考え、その対策を実行すべく日常生活を過ごしていくことはなかったかと思います。今回は、口の中の唾液が減ってしまうドライマウスに対応すれば感染予防にもつながることについてお話していこうと思います。

唾液が減少しドライマウスになってしまうと、唾液の働きも弱ってしまうということになります。唾液には食べ物を食べ消化を助ける働きや、汚れを洗い流す働きなどがありますが、今回は感染予防の働きに注目してみましょう。

それは唾液のなかには細菌やウイルスから守る成分が含まれており、また口の中の粘膜を保護したり、傷ついた粘膜を修復する働きがあるということです。つまり唾液そのものが細菌やウイルスを退治するだけでなく、周りの粘膜組織を保護し粘膜からの感染も防いでくれるのです。

唾液の減少を防ぐには、唾液腺に刺激を与えてあげることが有効です。お口の周りの筋肉をマッサージしたり、少し辛いものを食べてみたり、ガムなどをかんでみるのもいいでしょう。

しかしながらドライマウスの原因は多様で、生活習慣、お口からの蒸散、病気や服薬などがあります。口の中が乾くと感じる場合、まずはその原因を突き止めてからその対策をしなければなりません。ここはご自身の判断では難しいところになりますのでかかりつけの歯科医院で相談してみるといいでしょう。



以上でお話は終わります、皆様の感染対策の一助となれば幸いです。

# 知っ得！歯っぴーケア

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、うがい（洗口）をする機会が増えましたね。市販されている洗口剤には、沢山の種類があってマウスリンス・マウスウォッシュ・洗口液など名称も様々、さらに使用する目的によっても、口臭予防・虫歯や歯周病予防・保湿剤と種類が豊富でどれを選んで良いか難しいですよ。



京都府歯科衛生士会  
北支部  
(歯科衛生士)  
岡本美子

今回はドライマウス（口腔乾燥症）の軽減に効果のある洗口剤についてお話します。一般的な洗口剤には、アルコールが含まれている場合が多く、乾燥によってデリケートな状態になっているお口の粘膜には、アルコール入りの洗口剤やマウスリンスは刺激が強く、アルコールによる脱水作用でかえって口腔乾燥を助長させてしまいます。お口の乾燥がある場合には、アルコールフリーで、唾液の補助的な役割を担う保湿成分が配合された、刺激の少ない洗口剤・マウスリンスをお勧めします。食後の歯磨き後や唾液の分泌が減少する就寝前に、口内全体に広がる様に、約30秒間ブクブクうがいをして吐き出してください。保湿成分を残すために、うがい・水を飲むことは控えましょう。



# 歯っぴートーク（編集後記）

歯っぴーマウス通信Vol.4お読みいただきありがとうございます。  
日によって寒暖差が大きい季節になりました。

常日頃から温かく保ち、体力を付けておくことが、感染対策でも大切です。私も、習慣的に鼻うがいをしております。生理食塩水という体液と同じような塩分濃度の液体で、鼻を洗う方法です。体液に近い濃度であれば痛みもなく、感染対策、花粉症対策、上咽頭の炎症抑制にも有効な方法です。皆さんも是非、ご自宅で実践してみてください。  
取材協力いただきました皆さま有難うございました。次号もお楽しみに♪



京都市北歯科医師会  
公衆衛生委員  
(京都市北区開業)  
大河貴久